

〈名古屋支部〉 外国人留学生の就職支援 あいち学生支援コンソーシアムの取組

あいち学生支援コンソーシアムは、愛知県下四九大学の学長で構成する愛知学長懇話会と、日本学生支援機構の協力により平成二六年六月に発足した。その主な目的は、県下の大学で学ぶ、外国人留学生を含む大学生のために、様々な支援を行うことにある。

発足以来コンソーシアムでは、外国人留学生の就職支援、学生の悩み相談の二つの事業に取り組んできた。そのうち今回は、外国人留学生の就職支援事業を取り上げる。

愛知県（行政）との連携

マスコミなどで紹介されているように、中部国際空港の開港や、愛・地球博の開催で、いま愛知は大変「元氣」である。愛知県（行政）はこれを弾みとして、地域の活性化・国際化のための政策に取り組んでいる。コンソーシアムは、その設置目的に愛知県の取組がマッチしたことから、

外国人留学生の就職支援において連携して事業を推進していくことになった。

まず一〇月八日（土）には、名古屋大学留学生センターを会場に「外国籍県民あいち会議」を開催した。留学生二一名を含む参加者が、①愛知県のグローバル化について、②万博後の愛知について、③この地域での就職についての三つの分科会に分かれ、それぞれの立場から展望や意見を交わした。その後、分科会の発表とレセプションがあり、留学生側からは、「あいち」の知名度が低く外国から見にくい、留学生の求人数や職務内容への不満等が指摘され、また主催者側からは、地域の国際化のために様々な工夫をしていく、就職を含め愛知に対する留学生の意見を聞く機会をもっと増やす等の意見が述べられた。

続く一〇月一五日（土）には、同じく名古屋大学の豊田講堂において「留学生のための就職サポートフェア in 愛知」を開催した。

コンソーシアムは昨年、愛知県内に在学する外国人留学生の三、四年生と大学院生合わせて約二、三〇〇人を対象に「外国人留学生の就職に関するアンケート」を実施した。それによれば、実に回答者の四四％が、日本での就職を希望していることが分かった。

一方、海外進出を計画する地元企業では、外国人の雇用

に関する制度上の問題点や、留学生の求職状況などの情報不足により、なかなか留学生の採用活動に踏み出せない実情があるようだ。

こうした、留学生、企業双方の要望や問題点の解決を図る取組が実現した。このフェアには、東海地域に在学する外国人留学生三七六名、企業関係者五三名、学校関係者四八名が参加した。

午前には、最近の留学生の採用動向と将来的な予測、外国人の就労活動に関する法制度等の講演に続いて、参加者を留学生と企業関係者に分け、それぞれを対象としたセミナーを行った。留学生向けでは、企業による採用事例の紹介と、留学生のOBによる就職活動体験報告及びパネルディスカッションが行われ、また企業向けでは、外国人の適正な雇用、労働条件の確保と不法就労の防止、留学生の採用事例、労務管理上のノウハウなどが紹介された。

午後からは合同企業説明会が行われ、どのブースも県下での就職を目指す留学生の熱気であふれ、各企業の人事担当者も熱心に説明に応じていた。また、これと並行して、企業PRのためのプレゼンテーション、留学生向けのビジネスセミナー指導や個別相談も行われた。これらのなかで、企業における、留学生が社風や日本の慣習になじめるかどうか分からない、入社後短期間での帰国・退職で、社員教

育コストを失うリスクが怖いという不安や、留学生における、大学等で学んだ専門分野が活かせない、就職活動で日本人学生がどう対応しているか分からないといった問題について意見交換することができた。

留学生への支援と期待

こうした「県民会議」や「就職サポートフェア」を通じて、留学生の就職活動における障害を減らすことができたのではないだろうか。また、留学生と企業との接触機会を増やすことで、一人でも多くの留学生が地元企業に就職してくればとの期待がふくらむ。やがてそれが、彼らの地域社会への貢献にも繋がっていく。

日本に留学して来たことで分かるように、留学生は大きなモチベーションやパワーを持っている。日本経済が不況から徐々に抜け出しつつある情勢にあるなか、国際化を目指す地元企業においては、留学生に対する求人の増加も見込まれる。こうした状況は、「留学生受け入れ一〇万人計画」が達成された今日、受け入れた留学生の卒業後のケアと、地域社会の国際化を同時に実現できるチャンスである。コンソーシアムでは、今後とも愛知県等とタイアップして、外国人留学生の就職活動を支援していくこととしている。